

科目	医療的ケア 1							
担当	鋤柄 智子				年次	2年次	時期	前期
開講回数	16	時間	32(24)	授業方法	講義	領域	医療的ケア	医療的ケア
目的・ねらい	医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。							
到達目標	①医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちが理解できる。(1.5h) ②喀痰吸引と経管栄養について医療職と介護職の連携について説明できる。(2h) ③安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を説明できる。(4h) ④消毒と滅菌について説明ができる。(2.5h) ⑤急変時の対応、事前準備、報告について説明ができる。(3h) ⑥呼吸のしくみとはたらきを理解し、吸引に関する内容、方法、留意点が説明できる。(11h)							
内容・概要								
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	第1章 基礎知識 人間と社会			個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解			講義	
2	保健医療制度とチーム医療			保健医療に関する制度、医行為に関する法律			講義	
3	安全な療養生活			喀痰吸引や経管栄養の安全な実施			講義	
4				喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生			講義	
5	清潔保持と感染予防			感染予防、職員の感染予防			講義	
6				療養環境の生活、消毒法、滅菌と消毒			講義	
7	健康状態の把握			身体・精神の健康、健康状態を知る項目			講義	
8				急変状態について			講義	
9	第2章 喀痰吸引 概論			呼吸のしくみとはたらき、呼吸の変化			講義	
10				喀痰吸引			講義	
11				人工呼吸器、子供の吸引			講義	
12	喀痰吸引実施手順			気持ちの理解			講義	
13				感染と予防、危険性と事後安全確認			講義	
14				急変・事故発生時の対応、事前対策			講義	
15				器具・器材、清潔の保持、技術と留意点			講義	
16				技術と留意点、その他のケア、報告・記録			講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア (中央法規)					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 筆記試験					

科目	医療的ケア 2								
担当	飯島 佳代					年次	2年次	時期	前期
開講回数	18	時間	36(27)	授業方法	講義	領域	医療的ケア		医療的ケア
目的・ねらい	医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。								
到達目標	①吸引の技術と留意点について説明ができる。(11h) ②消化器系のしくみとはたらきを理解し、経管栄養に関する内容、方法、留意点が説明できる。(8h) ③経管栄養の技術と留意点について説明ができる。(8h)								
内容・概要									
回数	テーマ			内容				授業方法	
1	第2章 喀痰吸引 手順解説			器具・器材、清潔の保持				講義	
2				吸引の技術と留意点				講義	
3				吸引の技術と留意点				講義	
4				報告及び記録				講義	
5	経管栄養			消化器のしくみとはたらき、消化器の症状				講義	
6				経管栄養とは、注入する内容の知識				講義	
7				実施上の留意点				講義	
8				子どもの経管栄養について				講義	
9				感染予防				講義	
10				利用者、家族の気持ちと対応				講義	
11				危険、注入後の安全確認				講義	
12				急変・事故発生時の対応、事前対策				講義	
13	手順解説			器具・器材、清潔の保持				講義	
14				経管栄養の技術と留意点				講義	
15				経管栄養の技術と留意点				講義	
16				経管栄養に必要なケア				講義	
17				報告及び記録				講義	
18				報告及び記録				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)						
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 筆記試験						

科目	医療的ケア 3							
担当	高木 直美、板部 美紀子、飯島 佳代、鋤柄 智子				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	医療的ケア	医療的ケア
目的・ねらい	医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。							
到達目標	①シミュレーターを用いて、口腔内の喀痰吸引ができる。 ②シミュレーターを用いて、鼻腔内の喀痰吸引ができる。 ③シミュレーターを用いて、気管カニューレ内部の喀痰吸引ができる。 ④シミュレーターを用いて、経鼻経管栄養ができる。 ⑤シミュレーターを用いて、胃ろうによる経管栄養ができる。 ⑥シミュレーターを用いて、救急蘇生法ができる。							
内容・概要								
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	喀痰吸引			口腔内の喀痰吸引			演習	
2	"			口腔内の喀痰吸引			演習	
3	"			鼻腔内の喀痰吸引			演習	
4	"			鼻腔内の喀痰吸引			演習	
5	"			気管内カニューレ内部の喀痰吸引			演習	
6	"			気管内カニューレ内部の喀痰吸引			演習	
7	経管栄養			経鼻経管栄養			演習	
8	"			経鼻経管栄養			演習	
9	"			経鼻経管栄養			演習	
10	"			胃ろうによる経管栄養			演習	
11	"			胃ろうによる経管栄養			演習	
12	"			胃ろうによる経管栄養			演習	
13	救急蘇生法			救急蘇生法			演習	
14	"			救急蘇生法			演習	
15	"			総括			演習	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）							
単位認定の方法及び基準	出席 ・ 実技試験							

科目	介護過程 3 (施設)						
担当	森 由香子、板部 美紀子、高木 直美、彦坂 亮			年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護
目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
到達目標	①紙上事例の計画・情報の分析・課題の抽出・目標設定・計画ができる。 ②実習の受け持ち事例の計画・情報の分析・課題の抽出・目標設定・計画ができる。 ③学生が作成した介護計画について発表することができる。 ④ケースカンファレンスの理解ができる。 ⑤カンファレンスを展開することができる。						
内容・概要	紙上事例、実習受け持ちの事例、計画立案、ケースカンファレンス						
回数	テーマ			内容		授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方		講義	
2	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 1	情報収集と整理	演習	
3	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 1	情報の分析・課題の抽出	演習	
4	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 1	目標の設定	演習	
5	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 1	計画	演習	
6	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 2	情報収集と整理	演習	
7	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 2	情報の分析・課題の抽出	演習	
8	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 2	情報の分析・課題の抽出	演習	
9	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 2	目標設定	演習	
10	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 2	計画	演習	
11	利用者の状況に応じた介護過程の展開			ケースカンファレンスの準備		演習	
12	利用者の状況に応じた介護過程の展開			実践・評価・修正		演習	
13	利用者の状況に応じた介護過程の展開			実践・評価・修正		演習	
14	利用者の状況に応じた介護過程の展開			実践・評価・修正		演習	
15	まとめ			演習総括		講義	
使用テキスト・参考文献			なし				
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 成績				

科目	介護過程 4 (居宅)							
担当	加藤 玲子、沖田 美沙				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	介護過程
目的・ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。							
到達目標	①居宅介護の特徴を理解できる。 ②ケアマネジメントを理解できる。 ③紙上事例をもとに居宅介護過程の展開を理解できる。 ④ケアカンファレンスの理解ができる。 ⑤ケアカンファレンスの準備・展開ができる。 ⑥チームアプローチの意義を理解できる。 ⑦一連の手順で技術が習得でき、基礎的な知識・技術を体得できる。							
内容・概要	ケアマネジメントの意義、展開、居宅ケアプランの理解、実践的展開、チームアプローチ、ケアマネージャー、社会資源、サービス担当者会議							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方			講義	
2	ケアマネジメントの理解			居宅介護サービスの理解			講義	
3	ケアマネジメントの理解			ケアマネジメントの流れ ケアマネージャーの理解			講義	
4	ケアマネジメントの理解			チームアプローチの方法 ケアカンファレンスの理解			講義	
5	居宅での清潔			足浴			演習	
6	居宅での清潔			足浴			演習	
7	居宅での清潔			洗髪			演習	
8	居宅での清潔			洗髪			演習	
9	ゲスト講義についての事前学習			訪問入浴についての事前学習			講義	
10	ゲスト講義			訪問入浴デモ見学			演習	
11	ゲスト講義からの学び振り返り			訪問入浴についての振り返り			講義	
12	利用者の状況に応じた介護過程の展開			事例 居宅介護			演習	
13	利用者の状況に応じた介護過程の展開			ケアカンファレンスの準備			演習	
14	利用者の状況に応じた介護過程の展開			ケアカンファレンスの展開			演習	
15	まとめ			演習総括			講義	
使用テキスト・参考文献				なし				
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 期末試験成績				

科目	介護過程 5 (総合)							
担当	森 由香子、彦坂 亮				年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	他の科目で学習した知識を統合して、論理的・科学的に福祉や介護について考え実践できる能力を養う。							
到達目標	①研究の意義・目的を理解できる。 ②研究方法・仮説・調査・考察・発表等一連の研究方法を理解することができる。 ③文献検索等探究心・自主的に取り組むことができる。 ④成果物について学内でプレゼンテーションができる。 ⑤ケーススタディをまとめることができる。							
内容・概要	個人研究、事例研究、文献検索、プレゼンテーション							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方・下準備			講義	
2	研究テーマに関する取り組み			はじめに、背景			演習	
3	"			研究方法			演習	
4	"			仮説			演習	
5	"			調査			演習	
6	"			考察、文献検索			演習	
7	"			考察、文献検索			演習	
8	"			考察、文献検索			演習	
9	"			考察、文献検索			演習	
10	"			中間発表			講義	
11	ケーススタディをまとめる			情報の整理			演習	
12	"			目標設定			演習	
13	"			計画立案			演習	
14	"			考察、文献検索			演習	
15	総括			個人発表			講義	
使用テキスト・参考文献				なし				
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 期末試験成績				

科目	介護実習Ⅱ							
担当	板部 美紀子、彦坂 亮、森 由香子、高木 直美				年次	2年次	時期	前期
開講回数		時間数	180	授業方法	実習	領域	介護	介護実習
目的・ねらい	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。							
到達目標	老人福祉施設、老人保健施設、障害者施設、在宅福祉サービスなどの実習を通し、概要を知り、利用者と家族とのコミュニケーション、介護技術の応用、他職種や関係機関との連携について学ぶ。							
内容・概要	入所施設介護実習、訪問介護実習							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	入所施設介護実習	<p>介護技術の個別性を理解し応用力を習得する 利用者の観察にもとづいた生活支援技術を提供できるその際には安全・安楽・残存機能を活用して実施できるコミュニケーション、観察、環境整備、移動、食事、排泄、入浴介助、レクリエーションや行事等の企画運営、その他について体験から学ぶ</p> <p>他職種の役割を理解し、医療・福祉の連携の実際について学ぶ 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士等、他の専門職の役割や業務について、また、関係する諸機関との連携の在り方について説明や見学を通して学ぶ</p>					実習	
2	訪問介護実習	訪問介護等の特性を学び、個別介護過程の展開に亘って学ぶ					実習	
使用テキスト・参考文献		なし						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績						

科目	介護実習Ⅲ								
担当	森 由香子、彦坂 亮、高木 直美、板部 美紀子					年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	180	授業方法	実習	領域	介護	介護実習	
目的・ねらい	個別ケアを行うために個々の生活のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。								
到達目標	個別ケアを実践するための科学的な介護計画を立案、実施、評価できる。								
内容・概要	ケーススタディ								
回数	テーマ	内容						授業方法	
1	入所施設介護実習	<p>介護過程を展開する 利用者の情報を収集し、分析する 介護計画を立案する 介護計画に沿って実践する 実施結果について考察・修正する</p> <p>施設全般について理解する 職業倫理を確立する 自己洞察を高める</p>						実習	
使用テキスト・参考文献		なし							
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績							

科目	介護総合演習Ⅱ						
担当	板部 美紀子、彦坂 亮、森 由香子、高木 直美			年次	2年次	時期	前期
開講回数	23	時間数	46	授業方法	講義・演習	領域	介護
開講回数	23	時間数	46	授業方法	講義・演習	領域	介護
目的・ねらい	実習の教育効果を上げるため、実習前後に、実習オリエンテーション、技術の確認、実習書類の作成、マナー講座、実習報告などを行う。						
到達目標	①利用者理解を深める。 ②介護実践で活用する介護技術の確認をする。 ③利用者の状況に応じた介護実践を考えることができる。 ④実習の目的、目標を理解する。 ⑤実習を振り返り学びと課題を確認する。						
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告・技術復習						
回数	テーマ	内容					授業方法
1	導入	科目の目的・必要性・進め方					講義
2	事前学習	介護の実践 とらえ方					講義
3	事前学習	介護の実践 記録方法					講義
4	事前学習	介護技術					演習
5	事前学習	介護技術					演習
6	施設実習準備	実習の心構え					講義
7	施設実習準備	実習記録の書き方					講義
8	施設実習準備	事前訪問					講義
9	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
10	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
11	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
12	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
13	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
14	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
15	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題					講義
16	施設実習後の学習	実習の振り返りと課題					講義
17	施設実習後の学習	実習報告会					講義
18	施設実習後の学習	事例検討					講義
19	施設実習後の学習	事例検討					演習
20	施設実習後の学習	総括					演習
21	訪問介護実習準備	実習の心構え					講義
22	訪問介護実習準備	実習記録の書き方					講義
23	訪問介護実習後の学習	実習の振り返りと課題、総括					講義
使用テキスト・参考文献		なし					
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績					

科目	介護総合演習Ⅲ						
担当	森 由香子、彦坂 亮、高木 直美、板部 美紀子			年次	2年次	時期	後期
開講回数	23	時間	46	授業方法	講義・演習	領域	介護
目的・ねらい	実習の教育効果を上げるため、実習前後に、実習オリエンテーション、技術の確認、実習書類の作成、マナー講座、実習報告などを行う。						
到達目標	①介護過程の理解を深める。 ②実習の目的、目標を理解する。 ③実習を振り返り学びと課題を確認する。 ④知識、技術を振り返り卒業到達度を確認する。						
内容・概要	実習の意義・方法・対象者・目的・その他実習準備・実習報告・技術復習						
回数	テーマ	内容				授業方法	
1	導入	科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	事前学習	介護過程の理解				講義	
3	事前学習	介護過程の理解				講義	
4	事前学習	介護過程の理解				講義	
5	施設実習準備	実習の心構え・実習記録の書き方				講義	
6	施設実習準備	事前訪問				講義	
7	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題				講義	
8	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題				講義	
9	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題				講義	
10	施設実習中の学習	実習の振り返りと課題				講義	
11	施設実習後の学習	実習の振り返りと課題				講義	
12	施設実習後の学習	実習の振り返りと課題				講義	
13	施設実習後の学習	実習の振り返りと課題				講義	
14	施設実習後の学習	実習の振り返りと課題				講義	
15	施設実習後の学習	知識確認				講義	
16	施設実習後の学習	知識確認				講義	
17	施設実習後の学習	技術確認				講義	
18	施設実習後の学習	技術確認				講義	
19	施設実習後の学習	フィードバック				講義	
20	施設実習後の学習	フォローアップ				講義	
21	施設実習後の学習	フォローアップ				講義	
22	施設実習後の学習	フィードバック				講義	
23	施設実習後の学習	総括				講義	
使用テキスト・参考文献		なし					
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 成績					

科目	介護の基本3（多職種連携）							
担当	加藤 玲子				年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。							
到達目標	①地域連携の意義・目的が理解できる。 ②各市町村、都道府県の機能と役割、連携等を理解できる。 ③ボランティア等のインフォーマルサービスを理解できる。 ④多職種連携（チームアプローチ）の意義・目的を理解できる。 ⑤他の福祉職の機能と役割、連携を理解できる。 ⑥保健医療職の機能と役割、連携を理解できる。							
内容・概要	医療従事者、セラピスト、福祉業務従事者による講義							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	事例検討		事例の理解				講義	
2	"		介護計画立案				演習	
3	"		介護計画立案				演習	
4	多職種連携（チームアプローチ）		相談員の役割と機能、連携				講義	
5	"		介護計画見直し				講義	
6	"		介護支援専門員の役割と機能、連携				講義	
7	"		看護師の役割と機能、連携				講義	
8	"		歯科医師の役割と機能、連携				講義	
9	"		薬剤師の役割と機能、連携				講義	
10	"		栄養士の役割と機能、連携				講義	
11	"		音楽療法士の役割と機能、連携				講義	
12	"		言語聴覚士の役割と機能、連携				講義	
13	"		介護計画見直し				演習	
14	"		介護計画見直し				演習	
15	まとめ		発表、総括				演習	
使用テキスト・参考文献			なし					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績					

科目	介護の基本4（リスクマネジメント）							
担当	森 由香子				年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	尊厳の保持、自立支援という考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点から学ぶ。							
到達目標	①介護を取り巻く状況を理解できる。 ②リスクマネジメントの基本視点を理解できる。 ③介護現場の報告書を理解できる。 ④介護事故の要因分析・事故防止が理解できる。 ⑤事故発生時の緊急対応が理解できる。 ⑥介護サービス事業者の法的責任が理解できる。							
内容・概要	介護保険導入の背景と改正、介護従事者の倫理、リスクマネジメントの視点、福祉現場の報告書の意味、事故防止策、法的責任							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の意義、目的、必要性				講義	
2	介護従事者の倫理		職業倫理（高齢者虐待、身体拘束等）				講義	
3	リスクマネジメント総論		リスクマネジメントの基本視点				講義	
4	リスクマネジメントの必要性		リスクマネジメントの特性				講義	
5	リスクマネジメントの体制		組織としての体制、組織、委員				講義	
6	介護福祉現場の報告書		事故報告書、ヒヤリハット報告書の意味				講義	
7	介護事故の要因分析		介護事故の要因、各モデル				講義	
8	事故事例の予防対策検討		ヒヤリハット、介護事故予防、防止策				講義	
9	事故発生時の対応		連絡、緊急対応、報告				講義	
10	介護サービス事業者の責任、苦情		法的責任、苦情対応、記録管理				講義	
11	事例検討		介護事故事例				演習	
12	事例検討		介護事故事例				演習	
13	事例検討		介護事故事例				演習	
14	感染の対応、災害対策		感染予防対策、災害対策				講義	
15	まとめ		講義総括				講義	
使用テキスト・参考文献		なし						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績						

科目	介護の基本5（介護管理）							
担当	高木 直美				年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	介護の基本
目的・ねらい	尊厳の保持、自立支援という考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点から介護における安全やチームケア等について学ぶ。							
到達目標	①リーダーシップの必要性を理解することができる。 ②リーダーシップの変遷と変革を理解することができる。 ③リーダーシップとマネジメントの違いを理解することができる。 ④福祉現場の組織の役割と機能を理解することができる。 ⑤福祉現場の各管理者の役割と機能、連携を理解することができる。 ⑥介護福祉士のキャリアパスを理解することができる。							
内容・概要	リーダーシップとは、リーダーシップの変遷と変革、福祉現場の組織の役割・機能、各管理者の役割と機能・連携、介護福祉士のキャリアパス							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の意義・目的・進め方				講義	
2	マネジメントの基礎知識		介護とマネジメント				講義	
3	"		介護ケアのマネジメント				講義	
4	"		介護サービスのマネジメント				講義	
5	"		福祉従事者・施設長の立場から1				外部講師：講義	
6	リーダーシップの基礎知識		リーダーシップに必要な知識と技術				講義	
7	"		福祉従事者・介護主任の立場から1				外部講師：講義	
8	"		福祉従事者・介護主任の立場から2				外部講師：講義	
9	"		福祉従事者・フロアリーダーの立場から1				外部講師：講義	
10	"		福祉従事者・フロアリーダーの立場から2				外部講師：講義	
11	"		リーダー会議 指導方法の検討1				演習	
12	"		リーダー会議 指導方法の検討2				演習	
13	"		リーダー会議 指導方法の検討3				演習	
14	"		リーダー会議 指導方法の検討4				演習	
15	"		リーダーシップに必要な知識と技術・総括				演習	
使用テキスト・参考文献			なし					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績					

科目	介護の基本6（総合）						年次	2年次	時期	後期
担当	彦坂 亮、森 由香子、板部 美紀子、高木 直美、加藤 玲子									
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護		介護過程	
目的・ねらい	尊厳の保持、自立支援という考え方を理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点から学ぶ。									
到達目標	①人間と社会・介護・こころとからだのしくみを総合的・多面的に理解できる。 ②補完的講義として弱点を克服し学習ができる。 ③過去問を反復して学習し解説を作成することで理解を深めることができる。									
内容・概要	人間と社会・介護・こころとからだのしくみの総合的・多面的理解、各科目の弱点補完、過去問を反復し解説を作成する。									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	こころとからだのしくみ			こころとからだのしくみ等				講義		
2	人間と社会			社会の理解等				講義		
3	介護			生活支援技術等				講義		
4	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
5	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
6	人間と社会			第2回 模擬試験				試験		
7	介護			第2回 模擬試験				試験		
8	こころとからだのしくみ			第2回 模擬試験				試験		
9	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
10	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
11	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
12	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
13	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
14	国家試験対策			小クラス体制（面談含む）				学習		
15	国家試験対策			直前オリエンテーション				学習		
使用テキスト・参考文献				未定（8月頃決定）						
単位認定の方法及び基準				出席 ・ 期末試験成績						

科目	コミュニケーション2（応用）							
担当	彦坂 亮				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	介護	コミュニケーション技術
目的・ねらい	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者やその家族、他職者とのコミュニケーション能力を身に付ける。							
到達目標	①具体的・実践的なコミュニケーションの方法を理解できる。 ②事例検討、ロールプレイ等、様々なコミュニケーション技術を習得できる。 ③介護におけるチームのコミュニケーション図ることができる。							
内容・概要	事例検討、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、認知症の方、言語障害の方、聴覚障害の方、視覚障害の方、その他							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の目的・必要性・進め方				演習	
2	利用者の特性に応じたコミュニケーション		コミュニケーション障害				演習	
3	コミュニケーション障害のある利用者の理解		対応の視点、基本				演習	
4	利用者の特性に応じたコミュニケーション		高次機能障害に応じたコミュニケーション				演習	
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション		失語症に応じたコミュニケーション				演習	
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション		構音障害に応じたコミュニケーション				演習	
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション		聴力障害に応じたコミュニケーション				演習	
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション		視力障害に応じたコミュニケーション				演習	
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション		認知症に応じたコミュニケーション				演習	
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション		知的障害に応じたコミュニケーション				演習	
11	利用者の特性に応じたコミュニケーション		精神障害に応じたコミュニケーション				演習	
12	チームにおけるコミュニケーション		チームコミュニケーションの意義、必要性、方法				演習	
13	チームにおけるコミュニケーション		記録				演習	
14	チームにおけるコミュニケーション		報告・連絡・相談、会議				演習	
15	まとめ		授業総括				演習	
使用テキスト・参考文献			新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（中央法規）※1年次購入済					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 講義内成果物 ・ 期末試験成績					

科目	社会学									
担当	山口 宏					配当年次	2年次	時期	後期	
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	人間と社会		人間と社会に関する選択科目	
目的・ねらい	戦後の社会や文化の動きをつかみ、現代社会のさまざまな問題を理解し、社会を見つめる感性や良き社会・良き生への想像力を養う。									
到達目標	①社会変化の流れ、社会問題などに対して考える力を養う。 ②戦後文化を理解することができる。 ③家族の現在と変容について、理解することができる。 ④人が社会で生きる中で関わる政治や権力の構造について多面的な理解をすることができる。									
内容・概要	戦後文化・家族・メディア・貧困・消費社会・差別・その他									
回数	テーマ			内容				授業方法		
1	導入			科目の目的、意義、進め方				講義		
2	背景としての戦後文化			終戦から高度成長期へ				講義		
3	背景としての戦後文化			60年代の運動とその帰結				講義		
4	背景としての戦後文化			70年代からのプライベート化				講義		
5	心理主義化する社会			自分探しとこころブーム				講義		
6	家族の現在と変容			ジェンダーの観点と近代家族				講義		
7	家族の現在と変容			これからの家族像				講義		
8	メディアと情報			メディアを批判的にとらえる力				講義		
9	消費社会の諸問題			20世紀消費社会の展開と問題点				講義		
10	宗教と現代社会			世界宗教の概略と現代宗教の特質				講義		
11	民主主義の可能性			民主主義の危うさと、活性化への模索				講義		
12	格差と労働環境			階層格差、労働不安定化				講義		
13	差別の論理			差別を考えるための論理的枠組み				講義		
14	文化にみる社会問題			サブカルチャーに描かれる社会問題				講義		
15	まとめ			講義振り返り				講義		
使用テキスト・参考文献	使用テキスト：なし 参考文献：講義内で随時紹介									
単位認定の方法及び基準	毎回の授業内での記述100%									

科目	社会の理解 4 (地域福祉)							
担当	末永 和也				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間数	30	授業方法	講義	領域	人間と社会	社会の理解
目的・ねらい	尊厳の保持の観点からどのような状態でもあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し たり、見守ることも含めた適切な支援技術を修得する。							
到達目標	①家族の概念と変容、役割を理解することができる。 ②地域、地域社会の変化を理解することができる。 ③社会、組織の概念、機能と役割を理解することができる。 ④人のライフスタイルの変化を理解することができる。 ⑤地域共生社会について理解することができる。 ⑥地域包括ケアの理念と地域包括ケアシステムを理解することができる。							
内容・概要	生活と福祉・家族・地域・社会、組織・生活支援と福祉、地域共生社会、地域包括ケア							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の目的、意義、進め方				講義	
2	生活のしくみ		生活をとらえる				講義	
3	生活の基本機能		生活の多様性				講義	
4	ライフスタイルの変化		生活と働き方の変化				講義	
5	ライフスタイルの変化		少子高齢化と健康寿命				講義	
6	家族とは		家族の概念と変容				講義	
7	家族とは		家族の構造、役割、家族観				講義	
8	社会・組織		社会・組織の機能と役割				講義	
9	地域・地域社会		地域・地域社会の理解				講義	
10	地域社会における生活支援		地域社会の変化				講義	
11	地域福祉		地域福祉の理解				講義	
12	地域共生社会		地域共生社会の理念と実現に向けた取り組み				講義	
13	地域包括ケア		地域包括ケアの理念				講義	
14	地域包括ケア		地域包括ケアシステム				講義	
15	まとめ		講義総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 (中央法規) ※1年次購入済					
単位認定の方法及び基準			出席50% ・ 期末試験成績50%					

科目	障害の理解 1 (障害者理解)						
担当	廣瀬 玲子			年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ 障害の理解
目的・ねらい	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。						
到達目標	①障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解することができる。 ②身体障害について理解することができる。 ③精神障害について理解することができる。 ④知的障害について理解することができる。 ⑤発達障害について理解することができる。 ⑥難病について理解することができる。						
内容・概要	障害者の心理的特性や問題、各形態別障害者の心理、心のケア、家族支援と社会参加						
回数	テーマ	内容				授業方法	
1	導入・障害者の基礎的理解	科目の目的・必要性・進め方、障害者の介護の基本視点				講義	
2	福祉に関する制度の理解	制度・法律				講義	
3	障害別基礎知識	肢体不自由を生じる疾患と症状を理解する				講義	
4	障害別基礎知識	視覚障害を生じる疾患と症状を理解する				講義	
5	障害別基礎知識	聴覚障害・言語障害・重複障害を生じる疾患と症状を理解する				講義	
6	障害別基礎知識	内部障害 心臓機能障害を理解する				講義	
7	障害別基礎知識	内部障害 呼吸器機能障害を理解する				講義	
8	障害別基礎知識	内部障害 泌尿器機能障害を理解する				講義	
9	障害別基礎知識	内部障害 消化器機能障害・免疫・肝機能障害を理解する				講義	
10	障害別基礎知識	重症心身障害を理解する				講義	
11	障害別基礎知識	知的障害を理解する				講義	
12	障害別基礎知識	精神障害を理解する				講義	
13	障害別基礎知識	高次脳機能障害を理解する				講義	
14	障害別基礎知識	発達障害を理解する				講義	
15	障害別基礎知識	難病を理解する				講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解 (中央法規)					
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 提出物 (30%) ・ 期末試験成績 (70%)					

科目	障害の理解 2 (障害者支援)							
担当	廣瀬 玲子				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	障害の理解
目的・ねらい	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識をもとに、障害あるの方の気持ちの理解、家族を含む環境にも配慮した介護の視点について学習する。							
到達目標	①障害に伴う機能の変化と、日常生活への影響を理解することができる。 ②障害に合わせた日常生活支援の方法を学ぶことができる。 ③障害者に対しての地域におけるサポート体制を知ることができる。 ④障害者に対してのチームアプローチの内容を知ることができる。 ⑤障害者の家族の支援について理解することができる。 ⑥身体障害にかかわる通知文を学ぶことができる。							
内容・概要	障害の人の特性を踏まえたアセスメント							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	導入	科目の目的・必要性・進め方、障害者の介護の基本視点1					講義	
2	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	障害者の介護の基本視点2					講義	
3	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	運動機能障害に応じた介護					講義	
4	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	視覚障害に応じた支援方法					演習	
5	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	視覚障害に応じた支援方法					演習	
6	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	内部疾患 心臓機能障害に応じた介護					講義	
7	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	内部疾患 呼吸器機能障害に応じた介護					講義	
8	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	内部疾患 泌尿器機能障害に応じた介護					講義	
9	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	内部疾患 消化器機能障害に応じた介護 免疫・肝機能障害に応じた介護					講義	
10	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	重症心身障害に応じた介護					講義	
11	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	連携・協働・家族支援					講義	
12	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	知的障害・精神障害に応じた介護					講義	
13	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	高次脳機能障害に応じた介護					講義	
14	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	発達障害に応じた介護					講義	
15	障害に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ	難病に応じた介護					講義	
使用テキスト・参考文献	最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ (中央法規)							
単位認定の方法及び基準	出席 ・ 提出物 (30%) ・ 期末試験成績 (70%)							

科目	生活支援技術 8 (リハビリテーション)							
担当	尾崎 猛				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義・演習	領域	介護	生活支援技術
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①リハビリの理念・目的を理解できる。 ②障害に対する考え方を理解できる。 ③リハビリの体系を理解することができる。 ④疾患・障害に対するアプローチを理解できる。 ⑤地域におけるリハビリを理解できる。 ⑥補装具、福祉用具と住宅改修を理解できる。							
内容・概要	個別ケア、ICF、リハビリテーションの考え方、疾患別介助の方法、補装具、ポジショニング、福祉用具、介護予防							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の目的・必要性・進め方			講義	
2	リハビリの理念			定義、チームアプローチ、自立支援			講義	
3	障害に対する考え方			ICIDH、ICF			講義	
4	リハビリの体系			医学的リハ、社会リハ、教育リハ、職業リハ			講義	
5	疾患・障害に対するアプローチ			脳血管障害に伴うアプローチ			演習	
6	疾患・障害に対するアプローチ			片麻痺に伴うアプローチ			演習	
7	疾患・障害に対するアプローチ			起居動作			演習	
8	疾患・障害に対するアプローチ			福祉用具の活用			演習	
9	疾患・障害に対するアプローチ			高齢化に伴うアプローチ			演習	
10	疾患・障害に対するアプローチ			パーキンソンに伴うアプローチ			演習	
11	疾患・障害に対するアプローチ			認知症に伴うアプローチ			演習	
12	疾患・障害に対するアプローチ			呼吸器・循環器疾患に伴うアプローチ			演習	
13	その他リハビリテーション			地域リハビリテーション			講義	
14	介護予防			制度・種類			講義	
15	まとめ			総合学習			講義	
使用テキスト・参考文献		学びやすいリハビリテーション論 (金芳堂)						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績						

科目	生活支援技術 9 (ターミナルケア)							
担当	廣瀬 玲子				年次	2年次	時期	後期
開講回数	15	時間	30	授業方法	演習	領域	介護	介護過程
目的・ねらい	尊厳を保持し、自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を提供できるようにする。							
到達目標	①終末期における介護の意義・目的を理解できる。 ②終末期の歴史と現状を理解することができる。 ③終末期の対象を理解することができる。 ④終末期を支える制度を理解できる。 ⑤終末期における多職種連携と介護福祉士の役割を理解できる。 ⑥終末期にある対象の家族を支えるケアを理解できる。 ⑦死をめぐる倫理的課題を理解できる。 ⑧危篤時、臨終時のケアを理解できる。							
内容・概要	終末期の歴史と現状、対象、制度上、介護福祉士の役割、家族ケア、倫理的課題、危篤時、臨終時のケア、多職種連携							
回数	テーマ			内容			授業方法	
1	導入			科目の意義・目的・進め方、現時点での死生観			講義	
2	高齢者の死をめぐる状況			終末期介護の現状と特徴			講義	
3	人生の最期を支えるということ1			終末期介護の定義・利用者のアセスメント			講義	
4	人生の最期を支えるということ2			終末期を支える制度・死をめぐる倫理・尊厳			講義	
5	終末期における身体症状			終末期に出現する主な症状・兆候と危篤			講義	
6	終末期における心の状態を理解する1			終末期に出現する主な症状			講義	
7	終末期における心の状態を理解する2			死に対する恐怖・不安の捉え方・尺度			講義	
8	トータルケア			終末期の症状に対する医療・介護の実際			講義	
9	終末期の症状に対する支援の展開1			介護の技術展開			講義	
10	終末期の症状に対する支援の展開2			経過を理解			講義	
11	家族を支えるケア			グリーフケア			講義	
12	「死」をテーマにしたDVD			DVD鑑賞後の「死生観」を含む感想文			講義	
13							講義	
14	終末期における多職種連携			他職種連携・医療との連携・介護福祉士の役割			講義	
15	臨終時・まとめ			臨終時のケア (エンジェルケア)			演習	
使用テキスト・参考文献			なし					
単位認定の方法及び基準			出席・ミニテスト・レポート・提出物 (60%)、レポート試験 (40%)					

科目	認知症の理解 1 (認知症理解)							
担当	高木 直美				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	認知症の理解
目的・ねらい	認知症に関する基礎知識の習得。							
到達目標	①認知症ケアの歴史や理念を理解することができる。 ②認知症高齢者の現状と今後を理解することができる。 ③認知症に関する行政の方針と施策を理解することができる。 ④認知症の種類と症状を理解することができる。 ⑤認知症の診断、治療を理解することができる。							
内容・概要	認知症を取り巻く状況、医学的側面からの認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援							
回数	テーマ	内容					授業方法	
1	導入・認知症を取り巻く状況	科目の目的・必要性・進め方					講義	
2	〃	認知症ケアの歴史、現状と今後の方針					講義	
3	医学的側面から見た認知症の基礎	疾患の理解 (脳のしくみ)					講義	
4	〃	疾患の理解 (中核症状とBPSD)					講義	
5	〃	疾患の理解 (アルツハイマー型認知症)					講義	
6	〃	疾患の理解 (脳血管性認知症)					講義	
7	認知症の原因となる主な病気の症状の特徴	疾患の理解 (レビー小体型認知症)					講義	
8	〃	疾患の理解 (前頭側頭型認知症)					講義	
9	〃	疾患の理解 (若年性認知症)					講義	
10	〃	疾患の理解 (その他の認知症)					講義	
11	〃	疾患の理解を深める (復習)					講義	
12	認知症の診断と治療の基礎知識	認知症の診断の基礎知識					講義	
13	〃	認知症の治療の基礎知識 (薬物療法)					講義	
14	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の治療の基礎知識 (非薬物療法)					講義	
15	まとめ	総括					講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規)						
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績						

科目	認知症の理解 2 (認知症支援)							
担当	高木 直美				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	認知症の理解
目的・ねらい	認知症に関する基礎知識をもとに、認知症の方の気持ちの理解、家族を含む環境にも配慮した介護の視点について学習する。							
到達目標	①認知症の人の心理・行動の特徴を理解することができる。 ②認知症に伴う機能の変化と、日常生活への影響を理解することができる。 ③認知症介護のアセスメントを理解することができる。 ④認知症の地域でのサポート体制や、チームアプローチを理解することができる。 ⑤家族支援の在り方を理解することができる。							
内容・概要	認知症を取り巻く状況、医学的側面からの認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		認知症の人の特徴的な心理・行動				講義	
3	"		認知症ケアの原則				講義	
4	"		認知症ケア (コミュニケーションの原則)				講義	
5	"		認知症ケア (ユマニチュード)				講義	
6	日常生活の支援		認知症ケア (BPSDの対応)				講義	
7	"		認知症ケア (非薬物療法)				講義	
8	"		認知症ケア (家族支援)				講義	
9	"		認知症ケア (社会資源)				講義	
10	"		認知症ケア (アセスメント)				講義	
11	"		事例検討				講義	
12	連携と協働		事例検討				講義	
13	"		発表				講義	
14	家族への支援		発表				講義	
15	まとめ		総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規)					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 提出物 (内容) ・ 期末試験成績					

科目	発達と老化の理解 1 (高齢者理解)							
担当	飯島 佳代				年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解
目的・ねらい	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得し、日常生活への影響を学ぶ。							
到達目標	①人間の心身の発達と、発達課題が理解できる。 ②高齢者の心身の特徴を理解できる。 ③高齢者に多い疾患を理解できる ④高齢者の異常を理解できる。							
内容・概要	人間の発達と成長の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康							
回数	テーマ		内容				授業方法	
1	導入		科目の目的・必要性・進め方				講義	
2	人間の発達と成長		発達の定義、段階、課題				講義	
3	老年期の発達と成熟		老年期の定義、老年期の発達課題				講義	
4	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活		脳神経機能の変化				講義	
5	"		運動機能の変化				講義	
6	"		感覚機能の変化				講義	
7	"		循環機能の変化				講義	
8	"		呼吸機能の変化				講義	
9	"		消化機能の変化				講義	
10	"		泌尿機能の変化				講義	
11	"		内分泌、生殖機能の変化				講義	
12	高齢者に多い疾患		高血圧、糖尿病、動脈硬化、高脂血症				講義	
13	"		脳血管疾患				講義	
14	"		心疾患、呼吸器疾患				講義	
15	まとめ		総括				講義	
使用テキスト・参考文献			最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 (中央法規)					
単位認定の方法及び基準			出席 ・ 期末試験成績					

科目	発達と老化の理解 2 (高齢者支援)						
担当	飯島 佳代			年次	2年次	時期	前期
開講回数	15	時間	30	授業方法	講義	領域	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解
目的・ねらい	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得し、日常生活の支援の方法を学ぶ。						
到達目標	①老化に伴う心身の変化と特徴を理解することができる。 ②老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響を理解することができる。 ③高齢者の疾患と生活上の留意点を理解することができる。 ④高齢者の心身の特性に合わせた対応や援助の方法を考えることができる。 ⑤高齢者に多い病気への対応や援助方法を考えることができる。 ⑥医療との連携について理解することができる。						
内容・概要	人間の発達と成長の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者と健康						
回数	テーマ	内容				授業方法	
1	導入・老化の理解	科目の目的・必要性・進め方 老化の理解・老年期の発達課題				講義	
2	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響 (移動)				講義	
3	〃	事例検討・高齢者の移動介助				講義	
4	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活	ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響 (清潔)				講義	
5	〃	事例検討・高齢者の清潔介助				講義	
6	〃	ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響 (食事)				講義	
7	〃	事例検討・高齢者の食事介助				講義	
8	〃	ICFの視点での老化に伴う身体的変化と日常生活への影響 (排泄)				講義	
9	〃	事例検討・高齢者の排泄介助				講義	
10	高齢者と健康	ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法 (高血圧・糖尿病・動脈硬化)				講義	
11	〃	ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法 (脳血管障害)				講義	
12	〃	ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法 (心疾患)				講義	
13	〃	ICFの視点での高齢者に多い疾患の支援方法 (神経・運動系の疾患)				講義	
14	〃	日常生活の中での医療との連携				講義	
15	まとめ	総括				講義	
使用テキスト・参考文献		最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 (中央法規)					
単位認定の方法及び基準		出席 ・ 期末試験成績					